

日本赤十字社募金交付金事業

令和元年度 第18回
玉城町社会福祉大会

福祉の作文・標語集



玉城町社会福祉協議会

目次

福祉の作文



特選

《小学生の部》

みんなが明るく楽しく

《中学生の部》

笑顔



入選

《小学生の部》

福祉の作文

車いすの国会議員

お父さんは福祉の仕事

わかば学園との交流会

《中学生の部》

あのととき

外城田小学校 六年 口野の 楓 せい 1

玉城中学校 三年 中山 紗智 さち 3

田丸小学校 六年 堺 柊斗 しゅうと 5

外城田小学校 六年 藪本 和花 やぶもとわかか 6

有田小学校 五年 小原 音煌 おね 7

下外城田小学校 四年 大川 一香 おおかわいっか 8

玉城中学校 一年 仲森 愛弥 なかもりまなや 9

福祉の標語

福祉の作文



特選

『みんなが明るく楽しく』

外城田小学校

六年

くちの
口野

そうせい
颯惺

ぼくは、去年の夏休みに福祉体験をしました。その時に感じたことは、いかにぼくの生活が不自由なくできているかです。その体験では、障害のある人が働いている店の見学や車いす体験などをさせてもらいました。その中で心に残ったことが2つあります。

1つ目は、障害のある人が働いている店の見学です。特別に、製造している所を見せてもらいました。目が見えない人や下半身がまひして、思うように体を動かせない人などがいました。ぼくが目が見えなくなったら、もしかするとずっと家にいるかもしれません。その人に目が見えないのにどのように誰が誰と分かるのか聞いてみると、声でわかると教えてもらいました。そこで働く職員全員の声を覚えていくそうです。

下半身がまひしている人はその商品にごみが入っていないか確かめていました。大事な仕事だと思いました。移動はふらふらして難しそうでしたが、作ったクッキーはすごくおいしかったです。

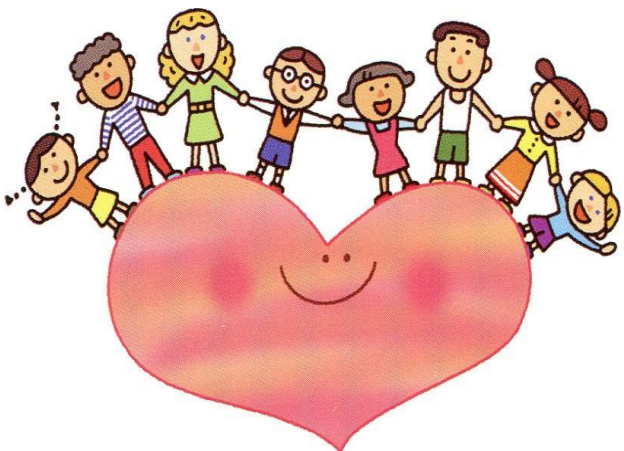
2つ目は、車いす体験です。体験をして感じたのは、目線

が低いということです。ぼくが立った時よりも目線が低いので、遠くが見えません。また、坂道を上がるのにも力が必要で大変でした。おしてもらっている時に坂道が上がったり下がったりするとすごくドキドキしました。日ごろから車いすに乗っている人は、毎日こんな思いをいっているのか気になりました。それに車いすだとなかなか進まないし、曲がりにくかったです。その時、以前、母が骨折して車いす生活になっっていた時のことを思い出しました。みんなである場所に遊びに行ったのですが、車いすでは入れない場所がありました。ぼく達が中で遊んでいる時、母は外で1人でした。きつとさみしかったと思います。母は、けがで治ったけれど、障害がある人にとっては、困ることもあるだろうと考えさせられました。今考えると、ぼくが店員さんに車いすの人もいいですか、と聞けばよかったと思います。

これらの福祉体験を通して、障害のある人もない人も明るく楽しくくらせる環境を作ることが大切なんだと思いました。

ぼくの将来の夢は父が働いている老人ホームで働くことです。父がそこで施設長をしていて施設の安全をたしかめ安心して利用できるようにしているすがたにあこがれました。ぼくも父の職場で働き明るく楽しくくらせる環境を作りたいです。たとえば利用者さんと同じ車いすに乗り、通りによく所はないかや危険な所がないかなど、自分で確かめたいです。

このようにして、ぼくは、障害のある人もない人も明るく



楽しくくらしらせる環境を作っていくことが大切だと思います。
みなさんもできることはありませんか。今、ぼくができるこ
とは、身近な人が困っていないかよく見ること、そして目の
前の人を喜ばせることです。





特選

『笑顔』

玉城中学校 三年 中山 紗智

なかやま さち

私の将来の夢は、障がい者との壁をのりこえ、だれもが笑顔で過ごせるように手助けすることです。その中で今一番がんばっていることが手話です。

二年生の時、シンガーソングライターの yokko さんが来てくださいました。yokko さんは歌を使って楽しく手話を教えてくれました。あいさつや簡単な自己紹介などをしているなかで、指文字を使って自分の名前を覚えようというものがありました。その時、yokko さんが私たちのグループに来て、「大丈夫？分かる？」と声をかけてくれました。私は、唯一知っていた「大丈夫。」という手話を yokko さんに向けてすると、笑顔で「おっ！すごい！手話上手やな。」とほめてくれました。その時、うれしくてたまりませんでした。

昨年、福祉の作文が入選し、こんな機会があったにないからということと玉城町社会福祉大会に参加しました。ステージ横で手話通訳士さんが他の方の発言にあわせて手話に訳している姿がありました。そんな姿を見て「手話で少し会話できるぐらいでいいや」と思っていたものが「自分もこんな風になりたい」という思いに変わりました。そして今、手話の勉強をしています。まずは指文字を完璧に覚えるため、表を見たり、お母さんに「これであっている？」と聞いたたりし

て独学で楽しく覚えていきます。まだまだ、ぎこちないし覚えられていないものもありますが、少しずつやっていければなと思います。

今までに聴力障がいの方としか関わったことがなく、障がい者と言われてパツと思ひ浮かぶのが耳の聞こえない方としか出てきませんでした。しかし、実際には、目が見えない視覚障がいの方、義手や義足、車椅子を使わないと生活を送れない肢体障がいの方もいます。手話の話ばかり言ってきたが、私は障がいをもっての方が笑顔になれるよう手助けするために、点字を読めるようになったり、車椅子生活を送っている方の補助をしたりするなど、介護・福祉の関係に進もうと思っています。

障がい者差別を無くそうと言っている方もいれば、実際に差別してしまっている人もいます。私は、聴力障がいをもっての方と関わっている中で、自分も耳が聞こえなくなったり目が見えなくなったりしたら不安やとまどいが大きいと思います。でも、まわりの方々が優しく笑顔で接してくれたら自分も安心するんだろうなと思いました。そして今、なりたくてなっているわけでもないのに前向きに自分の障がいと向き合っている方は本当にすごいと思います。障がいを持っている方々は私たちがみたいに普通に人生を歩むことを望んでいると思います。私はこの思いをもっているおかげで障がい者差別・男女差別などをしなくなりました。障がい者という言葉にとらわれず、みんなが平等に特別扱いされない社会になればいいなと思います。玉城町に住んでいて、玉城に視覚

障がいを持った方、聴力障がいを持った方に出会ったことはありません。でも、もし家族や近所の方がそんな風になってしまったら、助け合うことが大事です。車椅子生活の方々には玉城町にいらっしやいます。玉城町だけでなく高齢者が増えています。私には人と関わるのが苦手、すぐ声が小さくなります。それを気にせず自由に話すことができる人になって、障がいをかかえている方々と一緒に壁をのりこえ、どんな人とも自分のイメージで勝手に判断しない大人になりたいです。







入 選

『福祉の作文』

田丸小学校 六年 塚

さかい

柊斗

しゅうと

ぼくがなぜ、福祉の作文を選んだかというところ、いろいろ助けてもらったことがあるからです。どんなことかと言うと、二年前の災害の時に、地域でごはんを作ってくれたり、親せきが家のものを片付けてくれたりしたことがあったからです。

地いきの人が作ってくれたカレーと味ごはんはおいしかったですし、心が少し温かくなりました。

家の片付けもおわっていない時に、食べ物を作ってくれるのは、すごくおいしかったしお母さんもお父さんもうれしうでした。

今からでも、

「ありがとうございます。」

と言いたいです。

親せきが最初に来た時は、なぜ来たのか分かりませんでした。でもすぐに理由がわかりました。

「いそがしいのにすごいなあ。」

と、思いました。この理由によりぼくは、

「福祉」

に興味がわきました。

災害が終わった後、いつも遊んでいる公園がごみの山であ

ふれていました。その時、ぼくは、

「・・・」

と言葉を失いました。家の人に聞いてみたら

「他の家もここに捨てとるからな。」

と言われたのでぼくはおどろきました。

でも二日ぐらいたつとすべてのごみがなくなっていました。今思えば、それも町や町の人々がやってくれたんだなど思います。

ぼくも大きくなったら、地いきの人を手伝ったり、親せきの家に行って物を片付けたりしてみんなの役にたちたいです。

そして、災害などで困ってる人がいたら、自分も同じように助けてあげたいです。

多分、地域の人も

「助けてい。」

という気持ちでやっていると思います。



この作文を書いて、改めて地いきの人々と町の良さを知つたし、災害について思い出すことができたので良かったです。そして、災害はおこってほしくない事だけど、その時に人間の温かさを感じました。このような優しく温かい町に生まれて育つてよかったです。





入 選

『車いすの国会議員』

外城田小学校 六年 藪本 和花

やぶもと

わか

私は、テレビで見て、「えっ？」と思いました。私が見ていたのは、車いすの人たちの国会議員でした。その人たちの名前は、船後靖彦氏と木村英子氏です。船後靖彦氏は、全身の筋肉が徐々に動かなくなる難病だそうです。そして、木村英子氏は、脳性まひの重度障害があると言っていました。

私になぜ、そのテレビを見て「えっ？」と思ったかという
と、障害のある人たちは、自分でしゃべれない人もいるし、
意見を言うのも少し時間がかかったりするかもしれないと思
ったからです。私は、なぜそこまでして国会議員になりた
いのかなと思いました。それに対して、木村英子氏は、「多
くの障害者が重度訪問介護を使って就労できるように、国会
の中で頑張っていきたい」と言っていました。私は、この話
を聞いて、障害者だからといってあきらめたり、人の前に出
ないようにするのはなく、自分の障害をたくさんの人に知
ってもらおうとしていると思ったし反対に堂々としている
のです。すごいなと感じました。私だったら、そんな勇気がない
なと思いました。あともう一つ、私がすごいなと思ったこと
は、会議場で大型車いす用スペースの席を作って会議を始め
たことです。他の国会議員の人たちは、みんな同じスパー

だけど、船後さんと木村さんの席のスペースだけ広いということ。私はこうやって、障害のある人を大切に行っているのは、すごくいいことだなと思いました。私は、木村英子氏の「多くの障害者が重度訪問介護を使って就労できるように、国会の中で頑張っていきたい」その言葉にすごく感動しました。自分以外の他の障害を持つている人たちの代表として、自分から他の障害のある人たちのために頑張っていきたいと言っていたので、これからも頑張ってもらいたいなと思いました。

私は、車いすの人たちの国会議員の話を聞いて、ものすごくやる気と勇気があるなと思いました。これからも、障がいのある人と決めつけずに、一緒にいろいろなことをしていきたいし、障害のある人の意見を大切にしていきたいです。

現在の国会議員は健康な人や男の人が多いけど、将来の国会議員は、障害のある人ももっと増えていったらいいと思います。他にも女の人ももっと増えて、いろいろな人が当たり前にいる国会になって、今困っている事が改善していったらいいと思います。

いろんな立場の人が、国会で自分の意見を言っていいたら、みんなが楽しく暮らしやすい社会になっていくと思います。





入 選

『お父さんは福祉の仕事』

有田小学校 五年 小原 音煌

おはら ねお

ぼくのお父さんは、知的障がい者の人たちが働いているしせつで、先生をしています。そのしせつは、しゅう劳けい続しえんA型の事業所です。親亡き後に自分一人でも生活ができるようにグループホームもあるので、そこで生活を送っている人もいます。

そこは、働いている障がい者の方が、老人かいごしせつや病院、知的障がい者B型しせつなどから運んできたシーツやタオル、ふとんなどを仕分けする係、洗たくする係、かんそうさせる係、たたむ係、けつそくする係に分かれているクリーニング工場です。それをお父さんがトラックで運んだり、障がい者の人たちの生活指導をしたりしています。

障がい者の人たちは、自分で電車やバスに乗って、自分たちだけでしせつに來ています。最初は、お父さんやお母さんといっしょに乗る練習をしたり、いっしょに行く友だちと協力し合ったりしながら來ているそうです。電車に乗るにはどのホームに行ったらいいかを聞いたりもするそうです。知らない人にたずねることは、とても勇氣がいる行動だと思いました。協力し合うことも、大人になっていくためにも、とても大事なことなので、ぼくも協力し合う気持ちで心がけ、大

事にしていきたいと思えます。

お父さんは、障がい者の人たちと休み時間にいろいろな話をするそうです。家の話やしゅみの話などを、とても楽しくそうに話してくれると言っていました。いつも明るく元気で周りの人にもそのパワーを与えるのは、すごいと思いました。ぼくもみんなにパワーを分けてあげる人になりたいです。

障がい者の人たちは、働いたお金でしゅみの物を買って、自立しています。でも、ぼくはまだお母さんに物を買ってもらっているので、ぼくも大人になったら、自分の物は自分で買って、自立していきたいです。

お父さんは、障がい者の人たちが、一人でも生活できるようにお手伝いをし、障がい者の人たちもそれができていると思います。まだできないこともあるかもしれないけど、それをみんなでおぎない合えば、きっとそれまでできるようになると思います。ぼくも、困っている人がいれば手を差し伸べ、助けたいと思えます。それがみんなの幸せだと思えます。だからお父さんのやっていることは、障がい者の人たちの生活を幸せにし、きれいなふとんをしせつに届けて、おじいちゃんやおばあちゃんたちを幸せにしています。そして、その働いたお金で、ぼくたち家族も幸せにしてくれています。

それが、福祉。





入 選

『わかば学園との交流会』

下外城田小学校 四年 大口 一香

おおぐち

いちか

わたしたちの学校では、一年に二回、わかば学園のみなさんとの交流会があります。いつも一回目は、わたしたちの学校で交流会をします。二回目は、わかば学園へわたしたちが行きます。一回目の交流会が九月二十六日にありました。

去年の交流会を思い出してみると、わたしは、玉入れをしたことだけしかおぼえていませんでした。

それでも、すごく楽しい思い出でした。今年は、去年

以上に思い出に残る交流会になるといいなと思いました。

今年の交流会の前日に、先生から、交流会のプログラムを聞いたり、自分たちで名ふだを作ったりして、じゅんぴをしました。最後に、代表して感想を発表する人も決めました。わたしは、じゅんぴをしながら、楽しみだなあと思っていました。でも、わかば学園のみなさんとなかよくできるか心配もありました。

そして、交流会の日になりました。わたしは、楽しみと心配で、前日はあまりねむれませんでした。そのせいで、開会式のときに、すごくねむくなりました。うとうとしそうになっていると、わかば学園のみなさんのじこしようかいが始ま



りました。これは、聞かなくてはいけないと思って、がんばって聞きました。一人ひとりが、一生けんめいじこしようかいをしてくれました。

開会式が終わると、一度教室へもどりました。低学年からじゅんばんに交流会をしていくからです。じゅんばんを待つ間は、国語の授業でしたが、あつという間に終わってしまっただ感じがしました。

そして、わかば学園のみんなとの交流会が始まりました。最初に、もうじゅうがりゲームをしました。動物を表す文字の数に合わせて、グループになるゲームです。わかば学園のみなさんといっしょのチームになれるといいなと思ってゲームを楽しみました。わたしは、わかば学園の子と同じグループになることができました。つぎつぎにチーム分けが変わるので、ずつといっしょにすることはできなかったけど、なんだかうれしい気持ちになりました。次に、チェッコリをおどりながらする玉入れをしました。ひさしぶりにしたので、おどりをよくまちがえましたが、くりかえすうちにまちがえずにできました。わかば学園のみなさんもいっしょにおどったり、玉を投げたりして楽しむことができました。先生といっしょにじょうずにおどっている子もいました。

次の交流会は、私たちがわかば学園へ行きます。そのときには、もつといっしょに遊んだり、話しかけたり、さそい合ったりできたらいいなと思っています。そして、来年も再来年も交流会がつづくといいなと思います。





入 選

『あのとき』

玉城中学校 一年 仲森 愛弥

なかもり まなや

僕には、何年前までは、おおばあちゃんがいました。お正月になれば、いっしよにごはんを食べたり、お菓子をくれたり、色々しました。遊びに行けば、いつも笑顔で明るく話しかけてくれました。

ある時、おおばあちゃんが病院に入院しました。僕はそのころ、まだ小さかったので、よく状況が分かりませんでした。たまに、おおばあちゃんといっしよに見舞いに行ったりもしました。でも、それはほんとに少しのことでした。

おおばあちゃんに、

「いっしよにひいばあちゃんとこ行く？」

と言われても、

「今日はいい。」

と、面どうくさがって、遊んでばかりいました。でも、見舞いに行ったときのおおばあちゃんの顔は、とてもうれしそうでした。帰るときは、いつも手をふってくれたり、やさしくハイタッチをしてくれたのを覚えています。

そんなことにも関わらず見舞いにはあまり行きませんでした。僕は、その事を後悔しています。今思えば、いくら小学校の低学年で、よく状況が分かっていたいかなかったとしても、

おばあちゃんといっしょについて行くだけでもしてあげればよかったと思います。

そして、僕がいない時におおばあちゃんは亡くなりました。しばらくして、おおばあちゃんが運ばれてきました。

「ひいばあちゃん、亡くなったんだ。」

その顔は、まるでねむっているかのように感じたのを、かすかに覚えています。周りでおおばあちゃんをかこんでいる人たちを見ると、ハンカチを片手に泣く人や、じっと見つめている人、それぞれいました。僕は、あまり感情がなく、事の重大さもあまり分かっていなかったと思います。おそう式や火そう場も出ました。前で話される言葉を聞いたり、手をあわせたりもしました。その時は緊張もしていました。火そう場では、何をするのか全く分かりませんでした。そこは、亡くなった人をそこで燃やすところでした。僕はその時少し驚いたと思います。何時間か待って、出て来た時の骨になったおおばあちゃんを見ました。おおばあちゃんは、「天国」へいったのだと思います。そして、骨を一つ、箱にそっと入れました。そして、お墓に来た時は、しっかりと手を合わせていました。

僕は、おおばあちゃんには、とても可愛いがってもらいました。僕だけではありません。僕のお母さん、おばあちゃんなども、長い間お世話になったと思います。家に運ばれて来たおおばあちゃんを見て泣いていたのは、今までの思い出などがこみ上がってきたからだと思っています。

おおばあちゃんが亡くなってから数年が経ちます。そして、

僕はこの作文を書きました。色々な思いをこめて書きました。そしてつい最近、ちよつとした驚きがありました。

「この作文、ひいばあちゃんのことについて書くんさ。」

と、おばあちゃんに言いました。すると、涙ながらに、

「ああそう・・・嬉しいわ。」

と、言っていました。僕はその姿を見て、目が一しゅん止まりました。僕は心の中で、（おおばあちゃんは僕のおばあちゃんにとっても、とても大切な存在だったんだ。）と感じました。

僕は、おおばあちゃんに感謝します。そして、いつもお世話になってる人たちにも、「ありがとう」の気持ちを持ちたいです。





大賞

《小学生の部》

げんきいっぱい えがおいっぱい あかるいまち

・・・ 田丸小学校二年

小辻

由菜

みんな元気いっぱいであいさつをして、
たくさんの人たちがえがおいっぱいになってあかるいまちが
つづくといいいなとおもったからです。

《中学生の部》

広げよう 笑顔の花と 元気の輪

・・・ 玉城中学校三年

野口

真鈴

たくさんの人が元気で笑顔になればいいと思いました。

《大人の部》

笑顔は 元気の バロメーター

・・・

西

村

実

希

子

心も体も元気でないと笑顔になれません。又、笑顔にしていると元気がうまれます。





元気ですたまき委員会賞



《小学生の部》

たいせつな まちのみんなと きずなの輪

・・・ 田丸小学校六年 尾崎 照英

たまき（玉城）の文字を元気になれる言葉として使いました。

《中学生の部》

「ありがとう」 たったそれで 変わるんだ

・・・ 玉城中学校二年 前田 桃奈

「ありがとう」には、いろんな意味があつて、その中に元気という意味があると思つて、これにしました。

《大人の部》

「元気ですたまき」で、 元気になる

・・・ 田中友香子

毎朝6時にTVのたまきチャンネルのたまき体操を一人ですてますが、体が活性化して今日も一日元気になる気になります。





青少年を育てる会賞



《小学生の部》

「大丈夫？」 声をかける その勇氣

・・・ 田丸小学校二年 山口 統護

こまっている人に「大丈夫？」と声をかけるやさしさが大切だとおもいました。でも、声をかけるのは少しはずかしいので、勇氣を出してがんばろうと思います。

《中学生の部》

つくろうよ 優しさあふれる 玉城町

・・・ 玉城中学校一年 取嶋 綾音

だれに対しても優しく接することができる玉城町にしていきたいと思っています。

《大人の部》

元氣は 明るい 笑顔から！

・・・ 出口 明郎

いつでもどこでも明るい笑顔で生活する中から元氣が得られます。

 健康しあわせ委員会賞

《小学生の部》

ひろげよう 笑顔であいさつ 元気のわ

・・・ 田丸小学校四年 粉うる間ま扶ふ実み佳か

笑顔であいさつすることによって、みんなの心があたたまり、元気になって、それがつながって、ひろがっていったらいいと思います。

《中学生の部》

朝ごはん みんなで食べて 元気出す

・・・ 玉城中学校一年 乙おと黒くろひまり

朝ごはんはみんなで食べるもの。みんなで食べて、元気になってほしい。

《大人の部》

忘れても 笑う笑顔に 福きたる

・・・ 野の口ぐち美み枝え

認知症の問題は明日は我が身。ささえあいの第一歩は、ちよつとした心つかいと笑顔。笑顔と笑顔がふれあえばみんなが元気に福来たる。





令和元年度 第18回
玉城町社会福祉大会

「福祉の作文」審査委員

(敬称略)

玉城町長

玉城町社会福祉協議会

会長 辻村 修一

玉城町教育委員会

教育長 中西 章

玉城町校長会 (下外城田小学校)

代表 後藤 安代

玉城町保健福祉課

課長 藤川 健

玉城町社会福祉協議会

事務局長 見並 智俊